



肝ぞう通信

2024年度 第 10 号 《 肝硬変症の治療 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院 1 階
総合相談室

受付時間：
平日 9：00～15：00
土曜日 9：00～12：00
(第 2・4 土曜日除く)

豆知識

肝硬変といわれたら、定期的な診察・血液検査・腹部超音波・上部消化管内視鏡を行いましょう。

次回号

テーマ：
化学療法室について

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

肝硬変症とは

肝硬変は、長期間にわたる肝臓の炎症や傷害が原因で、正常な肝細胞が線維組織に置き換わり、肝機能が低下していく病態です。主な原因としては、過度なアルコール摂取、C型やB型肝炎ウイルス感染、代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎などが挙げられます。

線維化が進行すると、肝臓内部の血流障害が生じ、腹水、食道静脈瘤、肝性脳症などの合併症を引き起こす恐れがあり、全身状態にも大きな影響を与えます。また肝細胞癌発症のリスクとなります。早期の診断と慢性肝疾患の原因の治療、適切な肝硬変管理が予後改善に重要なポイントとなります。

肝硬変症の治療

肝硬変症の治療は、原因疾患の治療と肝機能の維持・改善を目的とした管理が基本となります。

アルコール性肝硬変の場合は禁酒指導、ウイルス性肝硬変には抗ウイルス薬の使用、脂肪性肝疾患では体重減少など生活習慣の改善が重要です。

しかしながら、肝炎の制御が難しく、肝機能が低下して肝不全となる場合には、肝移植を含む治療も検討されるため、移植施設と連携しながら診療していきます。現時点では、肝機能を向上させる薬剤や再生医療などは確立されておらず、さらなる医療の進歩が期待されています。

肝硬変では、腹水や食道静脈瘤、肝性脳症など、さまざまな合併症が発症する可能性があり、適切な治療が必要です。次章にて詳しく説明します。